



所沢市民放射線測定室「とこらぼ」ニュースレター2020年12月

発行:とこらぼ運営委員会

メールアドレス tokolabo2013@gmail.com ホームページ <http://children-foundation-t.jimdo.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/tokorozwahousyasensokuteijo>



いつも「とこらぼ」にご支援いただきありがとうございます。原発事故という未知の状況の中、不安なまま過ごすよりも、自分たちが納得できる生の情報やデータを集め、自分の未来を自分で考えて決めていこう。このような思いからとこらぼの活動は生まれました。不安をより良い変容への種とできるような活動を、今後も続けていきます。皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。



新型コロナウイルス感染の状況下ではありますが、
当面のとこらぼの活動は次のようにいたします。

- ・公開測定は、気になる食材などスタッフで測定し公開します。
- ・測定依頼は、今まで通り受け付けます。

【「とこらぼ」のつぶやき】

100Bq/kgと8000Bq/kg

この数字は、前者は一般食品の放射性セシウムの基準値が、1kgあたり100Bqということであり、後者は東京電力福島第1原発事故後の除染で出た放射性セシウムが1kgあたり8000Bq以下の汚染土を、道路工事等の公共事業や農地造成に再利用しようという国が示した数字です。

食品については、すでにこの数字に基づいて流通しているわけですが、汚染土については、まだ方針の段階です。実際には利用されていません。しかし、いずれ実証実験を経て問題ないとなれば、再利用される可能性があるわけです。さらに、この数字は、国が定めた基準値ですから、これよりも厳しい数字を求めている人たちがいることも事実です。

もし、8000Bq/kg以下の汚染土で造成した農地で栽培された農作物が基準値100Bq/kgを下回れば、一般食品として流通してもよいことになります。

しかし、汚染土の8000Bq/kgという数字には、どれだけの根拠があるのでしょうか？食品については、消費者は、買うか買わないか選択する自由があります。しかし、汚染土を利用した公共事業や農地で作業する人々は、どうでしょうか？

私は、この数年間、週に1回程度、近隣の農家の作業を手伝っています。始めた当初は、マスクを着用していませんでした。すると、1か月も経たないうちに、鼻やのどの炎症が起きました。幸い、すぐに回復したのですが、原因は、農作業の際に吸い込む、大量の土埃や植物の粉でした。実際、一日の作業が終わると、鼻の中は真っ黒になります。耳鼻科の医師の勧めもあってそれ以来、真夏の作業でも必ずマスクを着用して、そのようなことはなくなりました。お世話になっている、農家のご主人も、鼻やのどが弱いそうで、やはり真夏でもかなり高性能（呼吸は大変）のマスクを使っています。昔から、農家の夫人が手ぬぐい等で顔を覆っているのは、日焼け対策だけでなく、防塵対策でもあったのです。自分は、農作業に携わるようになるまで全くこのことには気づきませんでした。

毎日、このような作業に携わっている人たちが、マスクをしていたとしても、多くの土埃等を吸い込むことは想像に難くありません。かつてのアスベストのように長い年月を経て影響が出てきたときには、誰も責任が取れないのです。原発事故から10年がたとうとしていますが、様々な場面で頑張っている人たちのことを忘れてはなりません。

【ようこそ「とらぼ」8周年祭りへ】

所沢に市民放射線測定室が誕生して8周年を迎えることができます。
ひとえに皆さまのお力添えの賜物であると感謝申し上げます。

「とらぼ」では、事故の記憶を風化させないために、測定結果を公開し、学びの場として、映画上映会や講演会を行ってきました。今年はコロナの影響から恒例の小豆川先生の講演会をオンラインで行い、大変好評でした。先生が帰還困難区域で調査している貴重な映像を見ながら、10年目を迎える福島の現状についてお話を伺いました。

当日オンラインに参加できなかった皆様からは、YouTubeへの投稿や会場での映像が見たいという要望も届いています。

そこで、8周年を記念しての「とらぼ」祭りでは会場での講演映像をご覧いただけるよう計画致しました。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。詳しくは、同封の案内チラシをご覧ください。

【小豆川先生講演会 初のオンライン開催】

10/4(日)小豆川先生の研究室、とらぼ、そして50名を超える参加者のみなさんをオンラインでつなぎ、とらぼ初のオンライン講演会を開催しました。

次から次へと新しいニュースが世を騒がせ放射線のことを忘れてしまいがちになりますが、毎年、小豆川先生の話聞くことで改めて事態の深刻さを思い返しています。

今回は、先生のお話とともに、帰還困難地域での測定作業を映像で見ることができました。空間線量が $300\mu\text{Sv/h}$ という途方も無い大きな数字にびっくりしました。事故当時、私が所沢の自宅周辺をはかっていた時は $0.8\mu\text{Sv/h}$ でも、びびっていました。それが、 $300\mu\text{Sv/h}$ とは？しかも、それは、珍しいものではないということです。

実際に測定している映像を見ると、ただ、数値を見るだけよりも、さらにリアルに、現場の状況の深刻さを感じることができました。

事故から10年近く経っても依然としてこんなに数値が高いこと、その環境で、事故処理の作業に携わっている人がたくさんいること、小豆川先生のように、計測してデータを残してくれる人がいることを、もっと多くの方に知ってもらいたいと思いました。

もう一つびっくりしたことは「研究費の少なさ」です。国から支給される年間の研究費はわずか30万円だそうです。そのため、先生の福島での活動のほとんどは寄付などにより賅われています。先生の活動への応援は、とらぼHPからも受け付けています。



【とらぼ会員からの投稿】 改訂版「放射線副読本」の問題点

文科省は2018年10月に改訂版「放射線副読本」を発行して小・中・高校生に配布しました。この副読本は多くの学校現場や市民団体から疑問や批判の声が挙がりました。滋賀県野洲市教育委員会は、すでに各学校に配布済みの副読本を回収しました。

「人工と自然界の放射性物質を同列のように扱い、（放射性物質が）安全であると印象を操作しようとしている」

「被災者の声を書かれていない」

「廃炉作業など今後の課題を記述せず、安全性ばかりを強調している」

市教育長は「原発事故で今も4万人以上の避難者がいるにもかかわらず、副読本にはその人々の思いが抜け落ちている。一度回収してから、資料を補うなどの活用方法を検討したい」としている。

以下に多数ある疑問点からいくつか挙げてみます。

①「放射線って何だろう」では、空気（ラドン）・食べ物（カリウム40）・宇宙・大地から放射線を受けているとして、「人工放射線によるものでも、自然放射線によるものでも人体への影響に違いはありません」としています。

②人工放射性物質であるヨウ素131は甲状腺に、プルトニウムは肺に、ストロンチウムは骨に、人工放射性物質はそれぞれ特定の部位に蓄積され放射線をごく近い細胞に放出し内部被曝を引き起こします。

③「放射性物質の量はチェルノブイリ事故の7分の1」などは意図的に「そんなひどくはない」と思わせる過小評価の記述です。日本政府でさえ福島原発事故で広島型原爆168発分のセシウム137が放出されたとしています。この現実をしっかりと見なくてはいけないと思います。

私もこの副読本は安全性ばかりが強調されているように思えます。今もなお、原発事故により多くの方が避難せざるを得ない状況です。このような事故を起こした東電のことは一言も書いていません。事故直後の、一般基準より20倍も高い年間20ミリシーベルト基準も解除されていないし、避難解除がこの基準によって行われていることも一言も書いていません。

このような副読本を使って子どもたちを教育していいのでしょうか。学校から新たな原発安全神話をつくることになるのではないのでしょうか。そんな危惧を感じます。

放射線副読本（平成30年10月改訂）（PDF版）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/attach/1409776.htm

参考資料

「20ミリシーベルト」と幻の安全・安心論 今中哲二(いまなか てつじ) 京都大学原子炉実験所

(埼玉県教職員OB 宮崎 俊朗)



「とらぼ」では以下のような業務をお手伝いしてくれる方を随時募集しています

測定スタッフ//測定補助・受付手伝い//公園土壌調査プロジェクトスタッフ//公開測定メンバー
ご自宅やご自宅周辺でできる作業もありますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

メール:tokolabo2013@gmail.com 電話:080-6257-2306



「とらぼ」メーリングリストに登録しませんか？

公開測定のご案内や結果速報、イベント情報を随時発信しています。

登録ご希望の方は、上記メールアドレスに「メーリングリスト登録希望」と書いてお送りください。